



STEINWAY & SONS のピアノ・・・100 年前の想い

本校には、戦前からの古いピアノがあります。一般に、コンサートホール等に置かれている世界最高峰のピアノと言われるものです（右写真）。

同窓会誌『八十年の歩み』によると、昭和5年（1930年）12月24日に「購入のピアノ到着」とあり、今日ならクリスマス・イヴの夜にサンタから届くプレゼントのような設定だったのでしょうか。翌年4月26日には、「創立20周年を記念して、記念式と同窓会寄贈ピアノの披露を兼ねて記念音楽会を開催した。」という記述と、二部構成による当日の演奏プログラムの記録もあります。

製造番号をもとにスタインウェイ・ジャパンに問合せると、1923年にドイツのハンブルクかアメリカのニューヨークにある自社工場で製造されたものと判明しました。また、型番から、現在の同社製の同型ピアノの価格は、数千万円を下らないとの付言もいただきました。これに関わって、同窓会誌『友垣 第15号』（昭和6年12月25日発行）に、「昭和五年度同窓会収支決算書 支出の部 ピアノ購入二付支出金」との記述があります。購入代金の全額支出か、一部補助かは不明です。

製造年と購入年との間に7年の時差がありますが、ある情報筋から「1923年に、ニューヨークの本社が関西地方にある楽器店に販売した」との記録の提供をいただきました。本校同窓会がスタインウェイ本社から直接輸入したのではなく、楽器店から購入したか、楽器店を経由して入手したものではないかと思われます。現時点で経過は不明です。

現在、このピアノは弦の振動を止める部品の一部に不具合があり、しばらく調律も行われていないため使用されていませんが、平成期に本校に在職された音楽の先生に尋ねると、当時は生徒が音取りで使用していたとのことでした。象牙の鍵盤はあちこちが黄ばんでおり、一世紀近くの間、幾人もの生徒が楽曲を弾いてきた歴史とその音色を想像することができます。こうした本校の「お宝」の存在から、モノの痕跡の背景にヒトの意志や熱意を感じざるを得ません。導入時の音楽教師や生徒たちの思い、卒業生の支援、そして、今日まで脈々と受け継がれてきた見えないバトン。閉校まで3年と迫るなか、いかに伝え、残していくか、今後の課題の一つになっています。

